

若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ 議論のまとめ（中間報告） 概要

- 若い世代が描くライフデザインや出会いについて、若者自身の認識や意見を把握し、希望の実現を阻む課題等を明らかにするため、大臣主宰の下、若者と有識者からなるワーキンググループ(WG)を開催。[松田茂樹 中京大学教授等の有識者 5 名 + 大学生・社会人等の20代若者 7 名で構成。]
- 令和 6 年 7 月～ 8 月の間、①結婚をめぐる現状や課題、②Z世代を始めとする若者の価値観、③ライフデザイン支援、④官民の出会い支援等につき議論し、これまでの議論を「中間報告」として整理。[本WGは 9 月以降も引き続き開催予定。]

若い世代の現状認識や価値観に関する主な意見等

- **社会的に正解とされる生き方が消失した中で、今の若い世代は、「他人や社会にとっての正解」よりも「自分自身が納得できているか（自分なりの納得解）」を大切にする傾向がある。**
- 自分たちが生きている今の時代は、**親の世代が若い頃を過ごした時代と、社会の価値観や選択肢の幅が全く異なっている**と感じている。こうした中で、今の若い世代には、自分の親とは異なるバックグラウンドを持つ、**近い世代の様々なロールモデルを知り、自身の将来についての「解像度」を高めたいというニーズがある。**
- 結婚やこどもをもつことは、「当たり前のこと」ではなく、**自分にとっての幸せを実現する手段の 1 つ**に過ぎず、本人が希望する場合に選択するもの。
- 経済的に自立して生きていけると感じている女性も増えており、女性は経済的に男性を頼って結婚をするものという見方には共感しにくい。**子育て期も夫婦ともに働き続けることを理想の夫婦像とする若者が増えている。**
- **核家族化や地域コミュニティの希薄化の影響**で、乳幼児の世話をしたり触れ合ったりした機会がないまま大人になる人も少なくない。乳幼児の世話をした経験、妊孕力に関する知識を得たとき、ライフプランについて考える授業を受けたときなどは、こどもや妊娠・出産について考えるようになるきっかけとなりうる。
- 20代前半の新卒男女が就職を機に地方から都市部へ大量に流出する現象など、**地方における少子化の実態を捉え、効果ある取組につなげる上で、地域間の人流を始め、各地域の特性を考慮することが重要。**

今後の取組に関する主な意見等

「こども未来戦略」等に基づき取り組むこととしている、**若い世代の所得を増やすための取組や共働き・共育での推進等を着実に実行していくことは大前提**とした上で、今後の取組について以下の意見等があった。

(1) ライフデザイン支援について

- 学校、地方自治体、企業での取組を促し、**ライフデザイン支援の裾野を広げていくことが重要。**
- ライフデザイン支援では、**将来の選択に関わる事実の知識と、実際に体験して得られる実感の両方が重要。地域性も考慮することが必要。**
- 全ての年代に共通の 1 つのコンテンツを提供するのではなく、**年代に応じて、必要な内容を適切な方法で提供することが重要。**

(2) マッチングアプリ・結婚相談所について

- マッチングアプリについては、**利用者が安心して安全に利用できるよう、第三者認証の仕組みや安全な利用方法等に関し、周知啓発を図ることが重要。**

(3) 行政が提供する出会い・結婚支援サービスについて

- 行政が提供する出会い・結婚支援の課題は、**その認知度の低さ。**
- 地域の結婚支援の効果を高めるため、国が支援フェーズごと効果検証の枠組みを構築し、**優良事例の横展開**に取り組むことが必要。**マッチングシステムの都道府県間の連携方策**の検討を進めていくこと等も必要。
- **サービス向上のために官民の連携協力**もさらに進めていくべき。

(4) 若い世代による情報発信等について

- **若い世代自身の意見・アイデアや協力を活かして、公的機関が発信する情報を敬遠しがちな若い世代にも伝わる情報発信の手法やコンテンツについて様々な工夫や仕掛けを講じる**ことが必要。
- 特定のメディア媒体で一方向的に発信するよりも、SNSでの発信や広告に加え、友達同士の口コミなど、**様々な情報流通経路を通して多面的に情報が届くようにすることが効果的。**

